

氏名	松枝 克典
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6248 号
学位授与の日付	2020年9月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	The clinicopathological differences of sporadic non-ampullary duodenal epithelial neoplasm depending on tumor location (非乳頭部十二指腸腫瘍の部位による臨床病理学的相違)
論文審査委員	教授 吉野 正 教授 柳井広之 准教授 山根正修

学位論文内容の要旨

非乳頭部十二指腸腫瘍 (sporadic non-ampullary duodenal epithelial neoplasm; SNADEN) は稀な疾患のため殆どその特徴は明らかにされていません。一方、表在型の SNADEN は粘液形質についての特徴に関していくらか報告があり、胃型腫瘍は腸型腫瘍と比べてファーター乳頭前に多く、悪性度も高いことが知られています。しかしながら、進行癌を含めた SNADEN の検討についてはこれまで報告がなく、今回我々は 11 の多施設で観察研究を行いました。粘膜内腫瘍 321 例、浸潤癌 89 例、合計 410 症例を検討したところ、乳頭前の腫瘍は、乳頭後の腫瘍と比べて、浸潤癌の割合が高いことが分かりました。また、乳頭前の腫瘍の方が、術後再発率が高く、無再発生存期間も短いことが明らかとなりました。以上より、乳頭前の SNADEN は乳頭後と比べて生物学的特徴が悪いことが示唆されました。

論文審査結果の要旨

本研究は、比較的稀な非乳頭部十二指腸腫瘍 (sporadic non-ampullary duodenalepithelial neoplasma:SNADEN) について検討したものである。これまでの知見としては、表在性の SNADEN は粘液形質について、胃型と腸型に分けられ、前者は後者に比べてファーター乳頭前に多く、悪性度が高いことが報告されている。今回進行癌を含めた SNADEN を検討した。症例は 11 施設の多施設合同観察研究である。粘膜内腫瘍 321 例、浸潤癌 89 例の合計 410 症例を検討した。その結果、乳頭前の腫瘍は乳頭後のそれと比べて浸潤癌の割合が高いことが判明した。また、乳頭前の症例のほうが術後再発率が高く、無再発生存期間も短い傾向があった。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、非乳頭部十二指腸腫瘍に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。